2026 年 8 月吉日

PRESS RELEASE

川崎市 岡本太郎美術館
Taro Okamoto Museum of Art, Kawasaki

展示室休室中も、岡本太郎美術館は活動します

令和 8 年度　出張展示 Part2.

「岡本太郎と沖縄　in Museum⁺205」

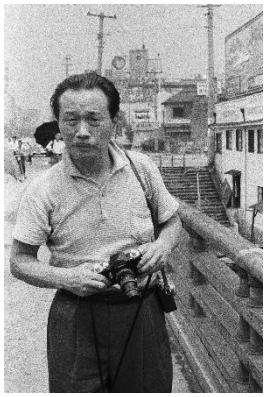
川崎市・那覇市　友好都市提携 30 周年記念

2026 年 9 月 18 日(金)～11 月 8 日(日)

岡本太郎美術館は、令和 8 年 3 月末から改修工事のために展示室を休室していますが、この期間中も、多くの方に岡本太郎の世界に親しんでいただけるよう、館外での出張展示を開催します。

02.《久高のろ》1959 年

第二弾の本展示は、那覇市と川崎市の友好都市提携 30 周年を祝って、岡本太郎が 1959 年に初めて訪れ、すっかり魅せられた沖縄へのまなざしをご紹介いたします。まだ沖縄がアメリカ統治下だった時代、岡本は沖縄の土地と風土、人々の暮らしの中に、失われた日本の原点と文化的根源を発見しました。この時の紀行文としてまとめられた『忘れられた日本―沖縄文化論』は、いまなお色褪せない名著です。



01.岡本太郎ポートレート(大阪)
1957 年

本展示は、この『沖縄文化論』からの岡本の言葉にあわせ、岡本が撮影した写真をご紹介いたします。岡本自身が、一つの「恋」のようなものだった、というほどに全身で没頭した沖縄。彼がそこで捉えた写真をぜひご覧ください。

《開催概要》

会　　期：2026 年 9 月 18 日(金)～11 月 8 日(日)
開館時間：9:00～17:00
休 館 日：月曜日(9 月 21 日、10 月 12 日を除く)、9 月 24 日(木)、10 月 14 日(水)、11 月 4 日(水)
観 覧 料：無料
会　　場：Museum⁺205 (川崎市役所本庁舎復元棟 2 階)
アクセス：JR 川崎駅から約 600m、京急川崎駅から約 400m

※併せて本庁舎1階の情報発信スペースでも関連情報を紹介予定です。
(期間：10 月1日(木)～28 日(水)※一部除外日あり)

【みどころ】

〇写真と言葉でたどる岡本太郎が捉えた「沖縄」の姿

1960 年 3 月から 12 月まで、岡本は『中央公論』で「沖縄文化論」を連載しました。琉球王国時代からの文化や習俗、そして市井の人々の暮らしを、自身で撮影した写真を交えながら綴ったこの連載は、翌年に中央公論社より『忘れられた日本―沖縄文化論』として出版され、毎日出版文化賞を受賞しました。

本展では、この『忘れられた日本―沖縄文化論』に収録の文章と、取材時に岡本が撮影した写真より、岡本が見て、感じた「沖縄」を紹介します。

〇岡本太郎の言葉で紹介する沖縄の文化

岡本の『忘れられた日本―沖縄文化論』では、沖縄の文化が多数取り上げられています。また、岡本は那覇でも取材をし、多くの写真を残しました。本展では川崎市と那覇市のさらなる親交と相互理解を願い、岡本の言葉を引用しながら沖縄の文化を紹介します。

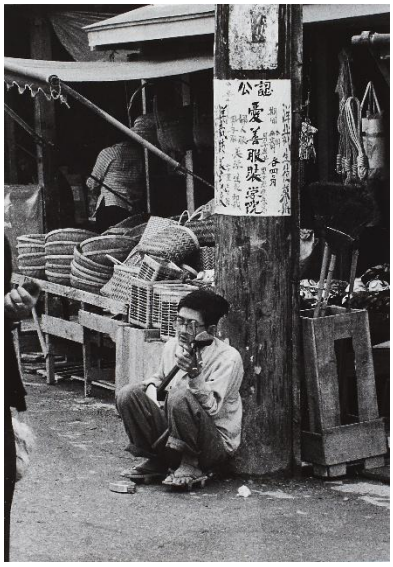
【関連イベント】

○「ワークショップ　オリジナルの顔を描こう！」

川崎市役所本庁舎に岡本太郎の彫刻作品《月の顔》があるのを知っていますか。岡本の作品には、様々な“顔”が登場します。今回は本庁舎内で紙皿に顔を描くイベントを開催予定。お楽しみに！

日　　時：10 月 25 日（日）
対象年齢：どなたでも（未就学児、小学校低学年向け）
料　　金：無料
申し込み：当日先着順（100 名程度）
※開催場所等、最新の情報は当館ホームページにてお知らせいたします。

●広報用画像



03.《那覇》1959 年

04.《闘牛／読谷》1959 年

05.《大御嶽（うたき）／久高島》1959 年

06.《イザイホー／久高島》1966 年

07.《久高島》1966 年

※01.以外の写真は全て岡本太郎撮影
★広報用画像をお貸出ししています。
ご希望の媒体様は、当館広報宛にお問合せください。

《お問い合わせ》
川崎市岡本太郎美術館
企画担当：佐藤、喜多
広報担当：山内（pr@taromuseum.jp）
〒214-0032
神奈川県川崎市多摩区枡形 7-1-5 生田緑地内
TEL：044-900-9898 / FAX：044-900-9966
https://www.taromuseum.jp